

KOBEの本棚

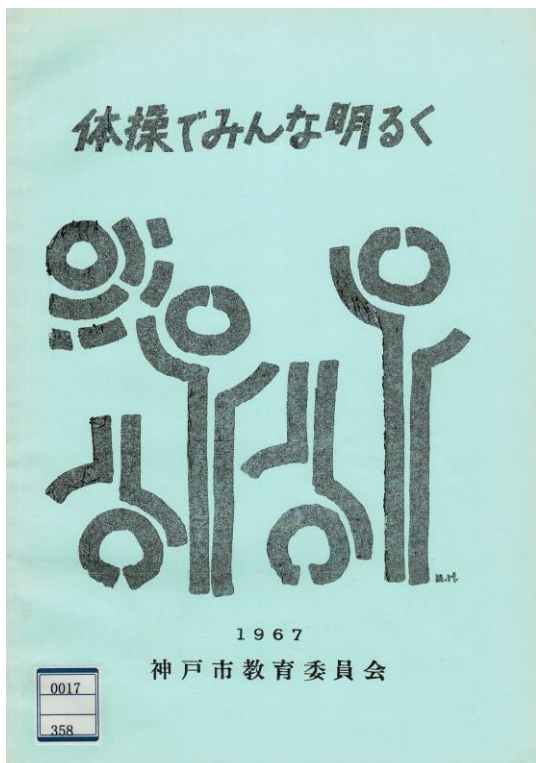
—神戸ふるさと文庫だより—

第102号 令和4年(2022年)11月20日

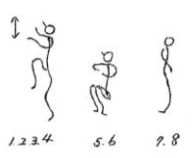
編集・発行 神戸市立中央図書館

〒650-0017 神戸市中央区楠町7-2-1

TEL: (078)371-3351 FAX: (078)371-5046



昭和41年神戸市教育委員会制定
神戸市学校体操
小学校1、2年用

順序	名称	時間	運動のしかた	備考	
1	おさるの木のぼりをしてひざを深く曲げる	16		1.2.3.4. ももを高く上げて、かけあしあしぶみをしながら両手を交互に上げおろして木にのぼる動作をする。 5.6. 深くひざを曲げてしやがみ、両手は胸の前でかるく握り重ねる。 7.8. 直立する。	かるく行なう。
2	ちよんになってスキップでとぶ	16		1~8. 両腕を横に伸ばし上下に動かしながらスキップで左へ大きく回る。 2回目は反対に行なう。	自由にすきな方向へ移動してもよい。

『体操でみんな明るく』(神戸市教育委員会, 1967)

体操の動きをユニークなイラスト付きで解説する。神戸体操(神戸市学校体操)の他に、神戸市民体操や原口市長考案の健康体操も掲載されている。

神戸体操

戦後、学校体育の場では軍事的要素が取り払われ、各指導者のもと様々な形態で授業が行われていました。そこで神戸市教育委員会は、児童・生徒が共通して取り組めるよう「神戸市学校体操」(通称:神戸体操)の作成に取り掛かります。子どもたちの身体能力を測定したデータに基づき、東京教育大学(現・筑波大学)教授の本間茂雄氏が振付を担当し、昭和二十六年、学年や性別ごとに計七種類が完成しました。同年八月発行の『教育時報』によると、五月七日に小学校と幼稚園の教員、八日・九日に市民を対象とした講習会が開かれました。その後、昭和四十年には、健康の大切さを掲げていた原口忠次郎市長を中心に内容の見直しが行われます。伴奏曲のレコードが市内の学校に配布され、授業や運動会などで親しまれました。しかし、次第にそれぞれの競技に合った準備体操を取り入れる考え方へと変化してきたため、昭和五十年頃をピークに実施する学校は減少しています。

実際に神戸体操の経験がある当館職員によると、楽しそうなイラストに反して意外にも体力を使うそうで、その運動量はラジオ体操の約三倍とも言われています。

みちくさKOBEE—ぶらり歩いてみませんか？ 潮崎孝代 シーズ・プランニング編

神戸市消防局の情報誌『雪』で二〇〇九年に始まり、十三年続いた同名連載を書籍化したもの。「神戸の風景画を描きたいんだけど絵になる三叉路はないですか？」「孫文の胸像はどこにありますか？」著者は神戸市総合インフォメーションセンターに勤務する中で、市民や観光客から寄せられる様々な質問に答えてきた。本書にはそんな著者ならではの視点で捉えた神戸の魅力がたくさん詰まっている。身近な何気ない場所の歴史や物語を知ることができ、町を歩くのが楽しくなる。



青いりんごの物語—ロック・フィードのサラダ革命 小川孔輔 (PH P 研究所)

百貨店などで惣菜店を展開するロック・フィード。創業者の岩田弘三は元町でレストランを経営し、その人脈からヨーロッパを視察、持ち帰り総菜デリカテッセン事業を始める。事業はサラダ中心のメニューに舵を切り、他の惣菜店と差別化を図り有名になった。書名の青いりんごは本社に置かれている安藤忠雄のオブジェに由来し「常に未熟で、新しいことに挑戦」との思いが込められている。

ドキドキ『播磨国風土記』 井上ミノル のじぎく文庫編 (神戸新聞総合出版センター)

『播磨国風土記』は霊亀元年(七一五)頃に書かれたといわれる地誌である。本書は『日本書紀』や『古事記』にも触れながら、風土記に登場する人物や地名の由来などをイラストと共におもしろく解説している。五色塚古墳や生石神社、ジビエ、古代米など、風土記ゆかりの史跡やグルメも掲載されており、現代に残る古代播磨を感じることができる。

孤高の登山家加藤文太郎 中澤大作 新温泉町教育委員会編 (新温泉町偉人マンガ編集委員会)

加藤文太郎はバーティイを組まない単独での登山や六甲山全山縦走で知られる登山家で、浜坂町(現・新温泉町)出身である。小説のモデルにもなり、著書『単独行』を残している。尋常高等学校を卒業後、現在の三菱重工神戸造船所に入社。会社勤めをしながら本格登山に挑戦続けた。生い立ちから悲劇に終わる最期の登山まで、同郷の著者があたたかなタッチで情感豊かに描く。

災害とトイレ—緊急事態に備えた対応 日本トイレ協会編 (柏書房)

阪神・淡路大震災で顕在化した災害時のトイレ問題。本書は、以降の災害で被災地が置かれた状況と対応をまとめた。また、被災地の要請を待たずに国が仮設トイレや物資を送るプッシュ型支援や多様性への配慮など、経験を活かした国・自治体の防災計画、地域で取り組むべき災害用トイレの準備、家庭での携帯トイレの備蓄から処理方法など、公助・共助・自助の立場から事前の備えを紹介する。

海を越えたジャパン・ティー—緑茶の日本交易史と茶商人たち ロバート・ヘリヤー 村山美雪訳 (原書房)

明治初期、緑茶は日本の主要な輸出品であった。アメリカでは緑茶が国民的飲み物として、ミルクや砂糖を入れて日常的に楽しまれていた。アメリカ人の茶の嗜好が緑茶から紅茶へと変化し、日本国内では緑茶が盛んに飲まれるようになったのはなぜだろうか。

明治時代、神戸に茶の焙煎工場を構え活躍した茶貿易商「ヘリヤー商会」。その末裔である著者が、日米の茶の文化の始まりから、茶貿易と産地の発展まで奥深い茶の歴史をひもとく。



伝説・物語の神戸を歩く 神戸女子
大学古典芸能研究センター編（神戸
新聞総合出版センター）

モダニズムの街と言われる神戸
だが、実は数多くの伝説や物語が
残る古典の街という一面もある。

悲恋物語の生田川、人柱の哀話
が伝わる築島、歌や地誌に残る有
馬、伊勢物語に描かれた布引、釈
迦の母摩耶夫人を由来に持つ摩耶
山。歌枕で知られる須磨は在原行
平の伝説や光源氏の物語の舞台で
もあり、村上帝社には琵琶の伝承
が残っている。源平合戦の古戦場
で平家一門の逸話も数多い。

本書は物語の背景にある伝承や
史実を、能や浄瑠璃、歌舞伎など
芸能も交えて紹介する。



人生、山あり谷あり家族あり 岸田
ひろ実（新潮社）

障害のある長男の誕生、突然の
夫の死、大動脈解離のため歩けな
くなった自分。作者は「死んだ方
がまし」と絶望するが、セラピス
トになりたいという夢を見つける。
夢に向かってゆつくりと進んでい
く中で「3つの出来事は、決して
悪い事ばかりではなく、多くの気
づきを与えてくれました。辛い出
来事は私にとつての転機だったの
です。」と思えるように変化した。
作者を支えているのは、すぐ行動
に移せるパワフルな長女、いつも
家族を笑顔にする長男、そして、
今も家族の心の中に生き続ける夫
だ。岸田家四人は今日も「機嫌。

|| その他の新刊 ||

自治体政策マン苦闘の軌跡―神戸都
市経営の思想と戦略 高寄昇三（公
人の友社）

一九二〇年代モダニズム詩集―稲垣
足穂と竹中郁その周辺 受川三九郎

ほか著 季村敏夫・高木彬編（思潮
社）

神戸住吉の豪商吉田家 本篇・論文
篇 内田雅夫編（住吉学園・住吉歴
史資料館 みるめ書房）

神戸 その25
あんな人こんな人

足立 巻一 あだち・けんいち
大正2年(1913年) ~ 昭和60年(1985年)

足立巻一は、幼くして父母と別れ、漢学者の祖父と長崎で過ごしました。^{*1} 祖父の死後、神戸で薬局を営んでいた伯父にひきとられ、少年時代は生田神社周辺を庭のように走り回って育ちます。^{*2} やがて、関西学院中学部に進学して国語教師・池部宗七と出会い、父のように慕って文学に傾倒していきました。神宮皇学館卒業後は神戸に戻って教諭となり、二度応召して入隊しています。戦後は新大阪新聞社で学芸部長・社会部長などを歴任しましたが、^{*3} 昭和31年43歳で退社してフリーになり、ラジオ・テレビ番組の原稿や、旅雑誌に寄稿したエッセイ、詩集、綿密な取材に基づく文芸研究書、伝記的要素の強い小説などを上梓し、多くの読者を得ました。「経験したことを掘り下げて書く。それしか、わたしにはできないし、それがまた実におもしろいんですなあ。ある日突然貴重な資料に出会ったりするもんだから、こたえられんですなあ」と、インタビューで語っています。^{*4} 晩年になっても取材対象を追って各地へ出かけ自分の目で確かめる姿勢は、終生変わりませんでした。また、昭和23年創刊の児童詩誌『きりん』の編集に、詩人・竹中郁らと携わったことでも知られていますが、竹中の死後、彼の本を出版するなど、師友を非常に大切にし、縁のつながった人々の図書の発行に力を惜しみませんでした。昭和50年、学者・本居春庭の生涯を追った『やちまた』で芸術選奨文部大臣賞を受賞しました。



参考：足立巻一 *1『虹滅記』、*2『親友記』、*3『夕刊流星号』、*4『神戸の100人』（神戸新報社）、東秀三『足立巻一』（編集工房ノア） 写真：『人の世やちまた』（編集工房ノア）

ランダム・ウオーク・

イン・コウベ⑩

ポートアイランドの

スーパーコンピュータ

令和二年六月、日本中が未知のウイルスへの対応を模索する中、国立研究開発法人理化学研究所(理研)が発表した飛沫感染リスクのシミュレーションが大きな注目を集めました。従来と比べ遙かに精度の高い計算はスーパーコンピュータ「富岳」を使用して行われました。「富岳」は神戸新交通ポートアイランド線で三宮駅からおよそ十五分、計算科学センター駅の南西に位置する理化学研究所計算科学研究センター内に設置されています。



世界に誇るスーパーコンピュータ(スパコン)が神戸に設置されることになったきっかけは、阪神・淡路大震災により被害を受けた神戸を甦らせようと平成十年に取り組みが始まった、「神戸医療産業都市構想」にあります。これは、医療関連産業

や研究開発拠点をポートアイランドに集積させ、神戸経済の活性化、市民の健康・福祉の向上、国際社会への貢献を目的とする構想です。その中核を担う施設として、平成十二年に理研の施設の一つが神戸に建設されました。

「富岳」の先代にあたるスーパーコンピュータ「京」の開発プロジェクトは、理研を中心に平成十八年に始まりました。そして、仙台市・埼玉県和光市・大阪市など十五の候補地の中から、神戸が立地場所選ばれたのでした。立地条件を調べた評価報告書では、運用環境などの評価点が一位となっていることに加え、当時新設予定だった大学などとの連携による相乗効果も期待されています。さらに、兵庫県及び神戸市と理研のこれまでの協力関係も高く評価されていました。

こうして神戸に設置されることになった「京」ですが、世界最速機を目指す目標に対して、平成二十一年、政府の事業仕分けで「二位じゃだめなんじゃないか」と指摘をされ事業凍結に近い判定を受けたことがありました。大学教授らによる凍結反対の緊急声明などにより再検討がなさ

れ存続が決まりましたが、順位だけにこだわるのではなく利用者側視点の開発を目指すことになり、実用性を重視した目標が追加されました。完成時の約八割まで設置が終わった平成二十三年六月、「京」はスパコンの代表的なランキング「TOP500」で世界一位を達成します。国産のスパコンとしては七年ぶりの快挙でした。

「京」の後継機は、平成二十六年に開発が開始されました。スパコンは「作ってなんぼ、使ってなんぼ」の精神の元、ランキングでの一位ではなく、実際に研究で使用する場合の性能を「京」の最大百倍にするこ

とが目標に掲げられました。元号が変わって令和元年五月、後継機の名称が発表されました。性能の高さとユーザーの拡がりを表現するため、日本一の高さと広い裾野を持つ富士山の異名である「富岳」という名称が選ばれました。葛飾北斎の「富嶽百景」をもじり、「富岳百『京』」と見ることもできます。

令和元年八月末、「富岳」設置のため「京」のシャットダウンセレモニーが行われました。同年十二月に

設置が始まり、翌年の五月には搬入を完了する計画でした。新型コロナウイルスの蔓延により、他国から部品や材料が届かないという問題が発生しましたが、製造・組立の順序を変えるなどして、影響を最小限にとどめることができました。

そして令和二年六月、「富岳」は「TOP500」を含めたランキングで四冠を達成しました。四つのランキングは、それぞれ違う性能を評価する指標になっています。研究に使用するさまざまな分野のアプリケーションで最高の性能を発揮するオールラウンダーを目指した結果でした。

「富岳」はその計算能力を活用して、精度の高い天気予報や、災害のシミュレーション、難病の薬の短期間での開発などにより社会問題の解決や科学の進歩に貢献することを目標としています。

「京」からバトンを引き継いだ「富岳」が、成長し続ける医療産業都市神戸で、より良い未来へと繋がる道を拓いていくことが期待されます。

参考：理化学研究所ホームページ
『富岳 世界4冠スパコンが日本を救う』
『神戸医療産業都市の戦略』 ほか